

勝林奇奇報

お寺でも、それから私達門徒の家でも、それぞれに「報恩講」が勤まります。報恩講という法要は、浄土真宗を開かれた親鸞さまをおしたい申す法要です。

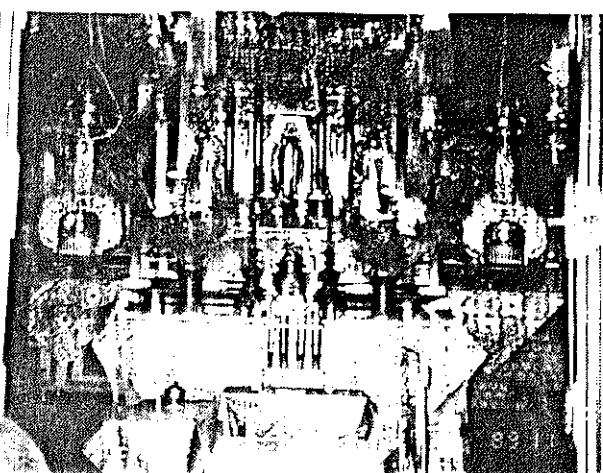
その
新鮮さまでどんなん方?

まず第一に、「宗教」とよばれるものがこの世には五万とあります。しかし、どれもどれも加持や祈祷。どんなにキレイに装おうが美しい言い回しをしようが所詮貪欲に身のしあわせや自分の利益を仏や神におねだりする、欲ぼうけ宗教ばかりです。その中にただ一人、お淨土にうまれる眞実の宗教は、如来さまのおはたらき「お念佛」以外にはないと、キツバリとけじめを立てて示し顯してくださいたのが親鸞さまです。

それから第二番目に親鸞さまは、眞実の如来さまは、誰であろう、この泥まみれ煩惱まみれの私のために、量り知れない遠い昔から願いどおしに願い、働きどおしに働いてくださっている。つまり泥凡夫の私こそが如来さまのまさしきおめあてであつたのだと、親鸞さまは身をもつて教えてくださった方です。

第三番目に親鸞さまは、亡くなつて八百年たつた今でも、私がお念佛申すときいつでも私のすぐそばで、一緒にいるヨ共に歩もうネ、御同朋御同行よと、私を力づけ励ましてくださつてゐる。その方が親鸞さまです。

という文章でこのように親鸞さまを仰がれました。そしてそれ以来、せめて年に一度、親鸞さまのご命日の法要をそれぞれに嘗み、それを通して、今もこの私を願いはたらいてくださる如来さまのお恵に気付かせていただきましょうと、『報恩講』という法要をお勤めすることになりましたのです。



『報恩講』は、私の勝手な欲をおねだりする、そんなうすぎたない法要ではあります。『報恩講』はまた、だれかのために勤めてあげる法要でもありません。『報恩講』は、この私に、今現に、はたらき呼びかけてくださる如来さまの願いを、親鸞さまと一緒に、気付き慶ばさせていただく法要であるのです。

身施

十一月のこよみ

二日	一日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日	一月七日	一月八日	一月九日	一月十日	一月十一日	一月一二日	一月一三日	一月一四日	一月一五日	京都本山にて	
教区企画室・專福寺報恩講	專福寺報恩講・佐田報恩講	草津順光寺法事	同じ	本山運動専門委員会	奥栗尾報恩講	口栗尾報恩講	市場報恩講	野尻・矢根報恩講	十六夜報恩講(福成寺)	高福寺忌明法要	役員会	区長会・暮坂報恩講	保谷・唐川報恩講	小田報恩講	斎藤さかえ氏宅忌明	太田・東里報恩講	奥小谷報恩講	正法寺報恩講	数森隆夫氏宅法事	正法寺報恩講	網千徳栄寺報恩講	本山運動専門委員会	正法寺報恩講	同じ	百合・桐野・寺坂・日野辺	丸中・片間報恩講	「みのりを聞く会」	生田善七氏宅忌	同じ	口小谷	同じ	同じ	除夜会	十日講	総代会予定 （日）	出石組総代研修会	月一	一月十四日・一月十五日	京都本山にて
教区企画室・專福寺報恩講	專福寺報恩講・佐田報恩講	草津順光寺法事	同じ	本山運動専門委員会	奥栗尾報恩講	口栗尾報恩講	市場報恩講	野尻・矢根報恩講	十六夜報恩講(福成寺)	高福寺忌明法要	役員会	区長会・暮坂報恩講	保谷・唐川報恩講	小田報恩講	斎藤さかえ氏宅忌明	太田・東里報恩講	奥小谷報恩講	正法寺報恩講	数森隆夫氏宅法事	正法寺報恩講	網千徳栄寺報恩講	本山運動専門委員会	正法寺報恩講	同じ	百合・桐野・寺坂・日野辺	丸中・片間報恩講	「みのりを聞く会」	生田善七氏宅忌	同じ	口小谷	同じ	同じ	除夜会	十日講	総代会予定 （日）	出石組総代研修会	月一	一月十四日・一月十五日	京都本山にて
教区企画室・專福寺報恩講	專福寺報恩講・佐田報恩講	草津順光寺法事	同じ	本山運動専門委員会	奥栗尾報恩講	口栗尾報恩講	市場報恩講	野尻・矢根報恩講	十六夜報恩講(福成寺)	高福寺忌明法要	役員会	区長会・暮坂報恩講	保谷・唐川報恩講	小田報恩講	斎藤さかえ氏宅忌明	太田・東里報恩講	奥小谷報恩講	正法寺報恩講	数森隆夫氏宅法事	正法寺報恩講	網千徳栄寺報恩講	本山運動専門委員会	正法寺報恩講	同じ	百合・桐野・寺坂・日野辺	丸中・片間報恩講	「みのりを聞く会」	生田善七氏宅忌	同じ	口小谷	同じ	同じ	除夜会	十日講	総代会予定 （日）	出石組総代研修会	月一	一月十四日・一月十五日	京都本山にて

出石組御同朋総結集大会
仮社代表 宝天院院主衣



出石組仮社連盟の亀井孝と申します。

昭和50年であります。
まず兵庫教区に仮社連盟がつくられました。
それは、将来の宗門興隆の為には、社会的にも、経済的にも、また、豊富な人生経験の上からも、最も充実した行動力のある壯年に、大きな期待とのぞみがかけられ、「門信徒たる仏教壯年の結集をはかり、もつて門信徒会運動・同朋運動の充実進展に資する」と宗則のうえにもその位置付けが明記され、全国の寺院にたいして仮社組織をつくるよう呼びかけがなされたのであります。

その呼びかけにこたえて、当時出石組の組長さんであります西方寺さんと、私どもの寺、勝林寺とにまづ仮社の組織ができたのであります。それが昭和50年9月であります。
以後、西方寺仏社会長の松原氏を中心^に、組織の拡大充実のための努力がかさねられ、昭和54年に、ようやく5ヶ寺の単位組織を結集して、出石組仮社連盟を結成したのでござります。
当時の幡多組長さまのご熱意にささえられたとはいえ、松原組連盟会長の昼夜をおしまぬ努力を、いま思うに付けてともに歩ませていただいた私としては、格別の感銘をもつて回顧せざるをえない^{のであります。}

爾來十有四年。松原会長のあとをうけた山西会長。組織拡大という願いのもとにたゆまぬ努力がなされてまいりました。結果、現在出石組19ヶ寺中11ヶ寺に仮社組織ができ、兵庫教区随一の連盟を自他ともに許すまでとなつたのであります。

今日、この結集大会において、輝かしいこの現況が報告できることを、みなさんとともに喜あうとともに、重ねて仏

社組織発展のためご貢献下さった、松原・山西連盟会長をはじめとする先輩各位に敬意と感謝とをささげたいと思うのでござります。

さて、ここまで組織の拡大ができます。殆どの寺に仮社ができました。

そこでこれらの問題です。

私は、いまだの仮社においても考えなければならないことは、「何のための組織か」ということではなかろうかと思ひます。

宗門においても教区においても、ずっと二つの目標をかけてやって参りました。

一つは組織の確立ということ、もう一つは基幹運動に取り組むということでし

た。ところが、「基幹運動」ということがわざりにくいということもあって、これへの取り組みは全くなされないまま今日に至っているように思います。

「組織はできたがなにもしない仮社」になつてゐるのではないかと思ひます。

わたしの貧しい経験から、私なりの提言をしてみたいと思います。

結論からもうします。
とにかくうごきましょう。うごくながで基幹運動とは何なのかといふこともだんだん分かつて来ます。そして、動くながでこそ、ほんものの会員も増え、だからも認められる仮社組織ができるのであります。

もう何年も前から私達の地方は超高齢化社会にはいっています。参られない。遠いお寺のご法座にも参る便がない。一人でさびしい余生を過ごしておられる田舎のお年寄りたち。

さしづめ私達は考えました。
足腰のたたない在寺ためにお寺にも参られない。遠いお寺のご法座にも参る便がない。一人でさびしい余生を過ごしておられる田舎のお年寄りたち。

70才以上のご門徒に案内状を差し上げます。「若い者といっしょにおみのりにあわしていただきましょう」と。マイイ

クロバスをチャーターして村々、谷谷にお迎えに参ります。仮社仏婦会員も一緒に「お正信偈」をあげ、ご住職のご法話をいただきその後お帰りもバスでおくります。仮社の女たが用意してくださいました。御馳走をいただきながらカラオケ・日本舞踊など演芸を楽しんでいたります。もちろんお帰りもバスでおくります。

これだけのことですが、しかし第一お年寄りがよろこんでくださいます。来年の「敬老報恩講」をたのしみに待つてくださいます。

ただだんご門徒全体から、仮社活動が認められてきたように思います。門徒のほとんどの壮年が会員になっていて下さいました。

それよりももっと大切な成果が生まれてきました。

その一つは、「敬老報恩講」を一緒に取り組んだ仏婦と仲良しになれました。やつているうちに、気がついてみたら門徒のほとんどの壮年が会員になっていました。

そのため、「敬老報恩講」以来、私の寺ではすべて仮社仏婦がいっしょにします。協力しあうなかで仏婦も仮社も活気がでています。

と同時にもう一つ、基幹運動とはなにをすることかといふことが、おぼろげながらわからぬかにかけたような気がするということです。

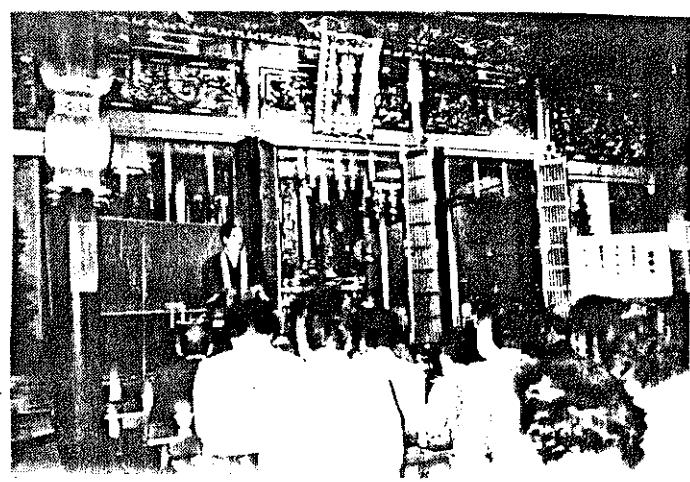
おみのりの上に差別があつては大変だ、おみのりは、みんなが共に聞かせていました。だからなればならないのだ。

そういうところから、わたしの寺の今後とりくまねばならない課題はなにかを、われわれはいま考えているところであります。

日本漬たくあん

材料

い大が適て大そを大漬合①。大根がまなと根をぐに鍋に方砂糖1キロ。②塩2合。35度焼酎2大根を重う石をはさみます。大きさを置く。一日ぐらいで水が上



出石組「法輪会」秋の研修会 勝林寺で

十一月十一日、「連研」修了生約50名が集まつて秋の定期研修会を開きました。出石高校の川上先生から地球汚染と仏法について斬新啓蒙的な講話をいじります。ただ今、研修生募集中。

